



高等学校学習指導要領改訂案が 公表されました



2月中旬、文部科学省より高等学校学習指導要領改訂案が公表されました。小・中学校からの流れである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、また、先行して進む高大接続改革の動きも踏まえ、知識や技能の習得だけでなく、思考力・判断力・表現力などの育成も重視した内容になっています。

科目の見直しも行われます。公民では「現代社会」に代わって「公共」が設置され、地理歴史では新たな必修科目として「地理総合」「歴史総合」を設定、選択科目は「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」となります。また教科として「理数」が新設されます。

ここでは当社の教材にも関わりのある英語と国語について簡単に見てみます。

外国語（英語）

必修科目

英語コミュニケーションⅠ(3)

選択科目

英語コミュニケーションⅡ(4)

英語コミュニケーションⅢ(4)

論理・表現Ⅰ(2)

論理・表現Ⅱ(2)

論理・表現Ⅲ(2)

国語

【()内は単位数】

必修科目

現代の国語(2)

言語文化(2)

選択科目

論理国語(4)

文学国語(4)

国語表現(4)

古典探究(4)

英語ではいわゆる4技能5領域を総合的に扱い、発信力の強化を目指します。また、国語の「現代の国語」では実社会・実生活での活動に必要な能力を育成することが求められています。

この高等学校学習指導要領で、2022年度、現在の小学校5年生から学習することになります。このあと、パブリックコメントを経て正式決定となり、夏頃には解説が公開される予定です。



英文校閲者のひとりごと⑨

桐原書店の英文校閲担当者（アメリカ出身、在日歴長め）が日本で感じたちょっとしたことをつぶやきます。



Shotengai Community and Long Life

One thing that many Japanese take for granted and that does not exist in many other countries is the shotengai, the covered shopping arcade that is often very close to a train station. Recently, I had a chance to visit the famous Jujo ginza shotengai, which I found to be quite charming. There was something about the electric lighting in the arcade that brought back a flood of childhood memories—of when my mother took me to Japan for the very first time in the early 1970s. The good old Showa era mood is still alive and kicking there, even though the Heisei era itself is about to end. It is said that a shotengai adds to the health and longevity of people who live around it. What is the reason for this? It may have something to do with the social bonds people have forged over the years, bonds that go beyond the nuclear family. When you see the grandpa and grandma working at the same old yakitori shop for well over 40 years, you feel a sense of comfort and belonging to the community. They are there to support us as much as we are there to support them. As another year has begun, it feels good to renew those bonds that make our lives so meaningful.



筆者が撮影した商店街の風景

日本語訳

商店街という地域社会と長寿

多くの日本人は当たり前だと思っても、ほかの多くの国には存在しないものの一つが「ショウテンガイ（商店街）」、すなわち鉄道駅のすぐ近くによくあるような、通りの上に屋根をかぶせた商店街です。最近、私は有名な「十条銀座商店街」を訪れる機会があり、それがとても魅力的であることに気づきました。そのアーケードの電灯の明かりには、1970年代の初めに母が初めて私を日本に連れてきたときの幼い日の思い出を洪水のようによみがえらせる何かがあったのです。平成の時代がもう終わろうとしている今でも、そこには古きよき昭和時代の懐かしい雰囲気がまだまだ息づいているのです。商店街は、その周辺に住む人たちの健康と長寿に貢献していると言われます。その理由は何でしょうか。たぶん、それは人が長年にわたって築いてきた社会的な結びつき、核家族を超えたきずなに関係があるのかもしれませんが。おじいさんとおばあさんが昔から変わらない焼き鳥屋で40年以上も働いているのを見ると、人は心が和み、地域社会との一体感を覚えるのです。私たちがこの二人を支えているのと同じくらいに、二人は私たちを支えてくれているのです。新しい年が始まった今、私たちの暮らしをとっても有意義なものにしてくれるそうした結びつきを再確認できるのはうれしいことです。

